



ビジネス経済応用の指導上の ポイントと留意点

元東京都立向島商業高等学校教諭 平島 廉久

はじめに

『ビジネス経済応用』は、従前の『国際ビジネス』の内容を再構成したものである。新学習指導要領においては、次の観点から改善し指導上のポイントとしている。

「経済に関する知識を応用して地域産業の振興に貢献するなど、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる」

そして、具体的な指導においては「新聞、放送、インターネットなどを活用し、我が国の経済の動向に着目させるとともに、企業活動の具体的な事例を取り上げ、適切な企業活動の在り方について討論などを通して主体的に考察させるようにする」と記されている。

したがって、ビジネスに必要な経済に関する知識を習得させるとともに、具体的な事例を通して考察させることが大切となる。そして、刻々と変化する経済の動向にたえず着目し、適切な企業活動の在り方について考えさせるようにする。

このため、『ビジネス経済応用』の指導においては、知識の伝達にとどまることなく、生徒にたえず考えさせ、積極的に授業に取り組み、主体的に行動させるようにしたい。

これらの観点から、以下、新学習指導要領解説に則り、各章ごとに指導上のポイントと留意点について述べることにする。

〔第1章〕サービス経済化とサービス産業

本章は『ビジネス経済応用』の総論、導入の章であり、生徒が興味と関心を持てる、最新の話題性の高い事例を活用し、授業を進めるようにしたい。

指導上のポイントとしては、我が国における産業構造の変化と、サービス産業の現状を取り扱い、サービス経済化の現在の状況と課題について、具体的な事例を通して理解させる。

①産業構造の変化と労働…経済が発展するにつれ

て産業構造が変化するとともに、サービス経済化が一段と進み、サービス産業の拡大につながっている。

テーマパークの人気は、その代表的な事例といえる。こうした変化が消費支出の面で顕著になっており、サービスへの支出が増大している。これらが進展している要因について、労働市場の変化や消費構造の変化を通して考えさせる。

②サービス産業の現状…教科書の下段で紹介している事例のように、ビジネスチャンスをとらえて、さまざまなサービス産業が登場している。これらの事例の成功要因について、考えさせる。

今後も新たなサービス産業が登場すると思われるが、それにはどのようなものが予測されるかについて、生徒の実生活を通じて考えさせる。生徒の柔軟な発想によって、どのようなものが飛び出すか興味深い。

〔第2章〕経済の国際化

本章は、経済の国際化の進展にともなう国際収支、貿易、国際資本移動、外国為替などについて取り扱い、経済の国際化の現状と課題について理解させる。なお、第1章の企業の国際化・グローバル化は学習指導要領では明示されていないが、第2節以降の学習をスムーズに進めるために設定したものである。

①企業の国際化・グローバル化…ビジネス活動が国際化からグローバル化している状況のなかで、その実態を具体的な事例を通して知らせる。海外での売り上げを大きく伸ばしている企業がある一方において、撤退する企業もある。進出国での現地適合理化や企業経営の現地化が、重要であることを知らせる。

②国際化の進展と国際収支…経済の国際化が進むと国際収支の変化が重要な課題となることから、我が国における経済の国際化の進展について、国際収支の変化と関連付けて理解させる。また、国際収支の概念及び構造についての的確に理解させる。

③貿易の利益と課題…国民生活の維持および産業

発展のためには、貿易が必要不可欠であり、貿易が比較優位の原理に基づいて行われていることを理解させる。また貿易の現状と課題について理解させる。

④国際資本移動…巨額の資金が世界を駆けめぐっており、時には投機的な運用が行われ通貨危機が発生することがある。国際資本移動の形態と役割について理解させるとともに、現状と今後の課題について考察させる。

⑤外国為替…外国為替のしくみと外国為替相場を理解させ、外国為替相場の変動によって発生する為替リスクについて考えさせる。

(第3章) 金融市場と資本市場

本章は、経済活動を円滑に進めるための、金融市場と資本市場の役割や発達などを取り扱い、双方の市場の現状と課題について理解させる。

①金融取引の発達…経済活動を活性化するためには資金の円滑な流れが不可欠であることを確認し、家計、企業の金融取引の現状について理解させる。

②貯蓄と投資の動向…経済を発展させるためには、将来に向けた投資が必要であることを知らせ、我が国における貯蓄と投資の動向について理解させる。

③金融市場と資本市場の役割…資金のやり取りをする場としての、金融市場と資本市場のしくみと役割について理解させる。

④金融市場と資本市場の課題…金融取引にはリスクがともなう。さらに経済のグローバル化が新たなリスクをうみだしている。こうした状況から、金融取引が安全に行われ、信頼を保持するための行政の組織や諸政策、今後の課題について考察させる。

(第4章) 企業経営

本章は、日本の経営の特色を考えさせ、企業を取り巻く外部環境の変化についての知識を身に付け、その変化に対応した企業経営の在り方について理解させる。

また、環境問題への対応や法令遵守、説明責任などの重要性について理解させるとともに、我が国の海外進出の経緯とその変化について理解させる。

①企業経営の特色…我が国は他国とは異なり、日本的経営と呼ばれる経営システムをつくり、経済発展の原動力となった。しかし、経営環境が変わり、さまざまな面で新たな動きと見直しが進んでいる。

これらの新たな変化を知らせ、望ましい企業経営の在り方について考察させる。また、企業の価値観や存在理由を示した経営理念は経営の要であり、その重要性について十分に認識させる。

②企業経営と外部環境…経済の国際化、規制緩和、少子高齢化など企業を取り巻く環境は大きく変化し、その変化に適切に対応していかなければならない。なかでも少子高齢化の進捗が大きな課題となっており、市場の縮小や労働人口の減少など、経済にマイナスの影響を及ぼしている。これらの状況についての確に理解させる。

③企業の社会的責任…近年、企業は企業市民として社会的責任が強く求められている。各社のホームページに掲載されている内容を参考にし、現状を理解させるとともに今後の在り方について考察させる。

④企業の海外進出と経営…企業の海外進出については第2章でマクロ的な面から学んでおり、ここでは企業経営の現地化や地域社会への貢献などについて、具体的な事例を通して理解させる。

(第5章) ビジネスの創造と地域産業の振興

本章は、起業の意義や株式会社を設立するための手続きの概要について理解させる。さらに我が国における新たなビジネスの現状について、具体的な事例を通して理解させ、身近な地域のビジネスの動向や、ビジネスに役立つ資源について、調査や研究を行わせる。

①起業の手続き…経済が発展するためには、企業活動が活発でなければならない。しかし、我が国は欧米諸国と比べて開業率が低く、産業の新陳代謝が進んでいない。その背景について考えさせる。

起業の手続きについては、事業目的や商号の決定、定款の認証と登記など、株式会社設立の流れについて理解させる。このなかで、経営理念については、重要性を強調し、具体例を取り上げ、各企業がどのような内容の経営理念を確立しているかを比較検討させる。

②新たなビジネスの展開…我が国は開業率が低いといえども、新たなビジネスが次々に生まれている。そのなかには、教科書 p.161 の「葉っぱビジネス」のように、身近なところから生まれたビジネスも登場している。このような事例を参考にして、新たなビジネスを考案させる。

③地域ビジネス事情…地域には自然や文化、あるいは産業においてさまざまな資源があり、これらを活用したビジネスについて考案させる。

今、地方を活性化するための地方創生が大きな課題となっており、地域ビジネスにスポットが当たっている。高校の現場から具体的なアイデアの発信を期待したい。